

## 事例紹介 1 株式会社 富士通中部システムズ 企業の森



株式会社富士通中部システムズの CSR 活動の一環として、平成 19 年から大台町唐櫃字奥ノゴロにおいて植樹・育林を実施

**目的：多様な木を植え、地域の自然回復拠点となる森づくりによる地域環境への貢献**

H19 年 33 種 263 本、H20 年 47 種 413 本  
H21 年 47 種 604 本、H22 年 49 種 437 本



2007 年 11 月 (植栽直後)



2010 年 7 月 (2 年 8 ヶ月経過)

先駆種のエドヒガン、ウリハダカエデは 3m に生長。中期種のイタヤカエデ、イロハモミジ・サワグルミ・ガマズミ等も順調に生長しています。

## 事例紹介 2 宮川用水土地改良区 水土里の森



水土里ネット宮川用水の水源地を理解する体験学習会として、平成 20 年に大台町小切畑地内、平成 21、22 年に藪地内アソ谷において植樹を実施

**目的：地域資源となりうる新たな造林手法の実践による造林未済地問題の解消モデル林としての地域林業への寄与**

H20 年 37 種 640 本  
H21 年 48 種 1461 本  
H22 年 61 種 1262 本



設置看板



アカガシの苗木

アカガシ・ケヤキ・トチノキなど、将来には材として活用できるものを中心に景観や貯水機能などにも考慮して設計しています。

**事例紹介 3 パナソニック松愛会 緑化基金事業の森**



株式会社パナソニック松愛会の緑化基金（緑の吸収源対策）事業として、平成 20 年に大台町唐櫃字奥ノゴロにおいて植樹を実施

目的：公益的機能を将来にわたり高度に発揮させ地球温暖化防止と地域住民の安全・安心な生活に資する

H20 年 10 種 360 本



植樹の様子



パナソニック松愛会

立地条件に合わせ、ケヤキ、イロハモミジ、ヤマザクラ等を植樹するとともに、パッチ状の防鹿柵も設置し、森林の適正な管理を行うこととしています。

**事例紹介 4 長ヶ生産森林組合 緑化基金事業の森**



長ヶ生産森林組合の緑化基金（緑の吸収源対策）事業として、平成 22 年に大台町長ヶにおいて植樹を実施

目的：未植栽の放置林や管理されない荒廃林等の森林・緑地の整備を推進し、森林の公益的機能の向上、地球温暖化防止と住民の安全・安心な生活に資する

H22 年 21 種 137 本



配植図



植樹の様子

イチイガシやケヤキ、ホオノキなど地域に自生する樹種のほか、特用林産用としてクヌギの植樹も行いました。

事例紹介 5 三重県事業地 林道法面の緑化



治山法面では、大台町滝谷字カカズリにおいて天然素材の簡易法面植栽柵（エコプランター）を使用し、植樹を実施

目的：中長期的で法面保護を考え、無管理の条件下で、表土を保全できる樹林環境（森林）を形成

H20年 19種 363本



樹冠想定図（全体）



ヤシャブシの苗木

ヤシャブシは成長が早く、他の苗木に対して日陰を作る役割や、根に肥料分（窒素）をため込む性質があり、また、土留めの効果も期待できます。

事例紹介 6 三重県事業地 皆伐跡地の造林



皆伐跡地では、森林環境創造事業により、平成 21～22 年に神滝地内始神谷、平成 22 年に南字島谷において植樹を実施

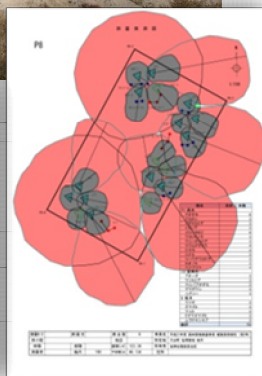
目的：立地にあわせ、治山効果の発揮、有用樹の利用、種多様性の保全、眺望景観の形成、地域植生の回復、大径木生産など、複数設定し動的に達成

H21～22年 56種 3523本(始神谷)

H22年 47種 1502本(島谷)



植樹地（南字島谷）



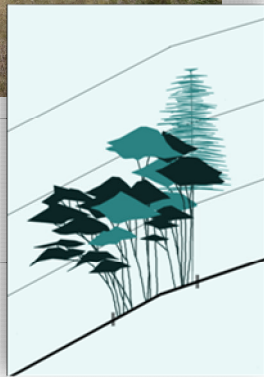
配植・樹冠想定図

始神谷ではシカの食害によって、過去に苗木被害を 2 回受け、苗木が育ちませんでしたが、小規模に複数箇所を防鹿柵で囲むパッチディフェンスにより苗木は確実に生長しています。

## 事例紹介 7 三重県事業地 宮川本流沿いの造林



樹冠想定図（正面図）



樹冠想定図（横断図）

宮川の本流沿いでは、森林環境創造事業により、平成 22 年に大台町南地内において天然素材の簡易法面植栽柵（エコプランター）を使用し、植樹を実施

目的：被視性が高さから、景観に配慮した植生回復を基本として、将来的には地域の景観資源となる沿道環境を形成

H22 年 31 種 560 本

最終的な目標森林像をイメージし、図化することにより、将来的に暖急のあるスカイライン構造を構成する設計をしています。